

2022年1月12日

新産業廃棄物最終処分場基本計画策定委員会 委員長 大迫政浩様

(写) 基本計画策定委員会 委員各位および事務局、茨城県知事 大井川和彦様、茨城県監査委員各位、茨城県議会 議員各位  
日立市長 小川春樹様、日立市県産廃処分場担当課、日立市議会 議員各位  
マスコミ各位、その他できるだけ多くの市民・県民の皆様

県産業廃棄物最終処分場建設に反対する連絡会

共同代表 荒川 照明 電話 090-9845-7019

日立市台原町 2-10-10

共同代表 数藤まち子 日立市諏訪町 5-24-7

### 産廃最終処分場基本計画の問題点に関する公開質問状

この度選定された産廃最終処分場の候補地は広大な唐津沢にあり、地形上洪水・土砂崩れの危険性が高く、巨大な廃棄物処分場の建設地として最も不適格であるにも拘らず、当該処分場の豪雨時洪水災害については全く論議がなされておらず、豪雨時洪水災害の危険性は意図的に隠蔽されているように推量される。

私どもはこれまでも「唐津沢の谷間に廃棄物処分場の建設が危険なことを訴える資料」を添えて、異議申し立てを大井川県知事宛に届けておりますが、県の回答は、『唐津沢は「浸水想定区域」に入っていないから問題ない』旨の一点張りで、豪雨時洪水災害の対策は何一つなされておらず、その危険性については相変わらず無視されている。このような事態は、本産廃処分場の建設計画の致命的な欠陥と言わざるを得ないため、県は一刻も早く計画を取り止め、税金無駄遣いの被害をなるべく少なくするよう対処することを願っている。

なお、「一旦候補地を選定した後の搬入道路追加の大幅な計画変更は選定要件を逸脱し、巨額な追加予算を伴うため、予算支出を取り止め、改めて産廃処分場の選定をするよう」県に対して住民監査請求をし、更には住民訴訟を起こしております。

県産廃最終処分場の建設計画は、これまで秘密裏に非公開で進められて来ましたが、最近になって具体的な計画（9月12日の基本計画策定委員会資料）が開示された。先に公開された施設設備のイメージ図の内容とあまり変わってはいないが、8m幅の搬入道路を追加したことにより、谷間に設置される浅い皿状の廃棄物貯蓄槽の面積は増々狭くなってしまい、巨大容量の244万 $\text{m}^3$ の廃棄物を埋立することができずに、皿状の廃棄物貯蓄槽の縁面の上部に廃棄物をうず高く積上げるよう計画されている。このような廃棄物の積上げ層は、崩れ易く、洪水に流され易く、極めて不安定な状況であり、前代未聞の異常で危険な産廃処分場であるため、到底容認できるものではありません。

**極め付けの問題点**は、豪雨時に唐津沢の上流部の広大な降水域から搬入道路のトンネル出入口付近に流入する激甚な洪水に対する災害対策が全く成されていないことである。私どもは機会あるごとに、現実的に災害対策は不可能であることを訴えて来ましたが、無視されるだけで、設置計画には、洪水対策は微塵も見られません。

この度は、豪雨時洪水の状況を理解し易くするため、**唐津沢上流部からの洪水が廃棄物槽に流入する様子の動画解析を実施**しましたので、よろしくご検討をお願いします。

そこで、私共なりに問題点をなるべく詳しく指摘して、添付冊子「**唐津沢産業廃棄物処分場計画の危険性を訴える**」を作り、できるだけ多くの皆様にご報告すると共に、巻末の「**まとめ**」として記載した8項目の主な問題点から、そのいくつかについて「**公開質問**」をさせていただきます。誠意ある回答がいただけますようお願いいたします。

## 1. 豪雨時に周辺から水が流れ込んで来る沢中の構築物に宿命的な危険性について

本紙4頁の参考資料1：「新産業廃棄物最終処分場整備に関する水文調査について」によると、唐津沢降水域は「**計画地流域**」として赤線で明示され、表流水は表示されてはいるが、水質検査結果だけが示されて、計画地流域にも拘らず、流域の面積・形状や表流水の流量など肝心な事項は何一つ調査されていない。そして、搬入道路より「**西側流域**」を（敷地外）と切り離し、「そこからの雨水は、新設道路に整備する道路側溝により鮎川に放流する。本処分場敷地内への流入は生じない」としている。しかし、豪雨時の沢上流部からの激流は、大部分が廃棄物槽を越水して、廃棄物を押し流すと共に、鮎川へ流入することになる。

言うまでもないが、洪水対策・環境保全に関しては、産廃処分場の候補地の敷地内だけではなく唐津沢全体の状況が密接に関係することが大きな特徴である。このような唐津沢の**固有な地形・形状に起因する洪水に対する配慮がいまだに皆無なのが本計画の致命的な欠陥**と言える。

添付冊子「**唐津沢産業廃棄物処分場計画の危険性を訴える**」（以後単に「添付冊子」と呼ぶ）の**9. まとめ (2)** に示すように、水防法の規定により、1時間あたりの想定最大降雨量を151mmとすると、唐津沢上流部の広大な降水域A（64.5ha）から、搬入道路のトンネル出入口付近に流入する激甚な洪水の流量は18.6 m<sup>3</sup>/sとなる。この流入水により引き起こされる洪水の動画解析結果（添付冊子 p88~p93）から、洪水の凄まじさは容易に想定できる。

12月4日の中間報告会資料によると、「搬入道路より西側を敷地外と線引きしただけで、トンネル出入口付近すなわち廃棄物槽の上端部に流入すると想定される毎秒18.6 m<sup>3</sup>（トン）にもなる流量の激甚な洪水に対する災害対策などは影も形もない」が、このような甚大な洪水を搬入道路の側溝に導入し、意のままに制御することは現実的には不可能である。

したがって、このまま本計画を続行するのであれば、**搬入道路より「西側流域」からの豪雨時洪水をどのようにして「本処分場敷地内への流入は生じない」状態を維持し、「新設道路に整備する道路側溝により鮎川に放流する。」のか具体的かつ明瞭に示していただきたい？**

## 2. 異常な廃棄物山積みによる廃棄物容器の脆弱性と廃棄物層の崩壊の危険性について

固い岩盤の深い谷状の現況地盤では、薄い皿状の廃棄物槽は、大きさの割に埋立てる容積が取れないため、廃棄物槽の縁面以上に廃棄物がうず高く積上げられる。最大高さ 35m の盛土埋立したところに皿状の廃棄物槽が設置され、埋立てる廃棄物と積上げられる廃棄物は、ほぼ同量の 122 万 m<sup>3</sup> である。通常であれば廃棄物槽の深さは 15m 程度なので、標準的な廃棄物槽の面積は 16ha を要するが、本計画では深い谷間のため廃棄物槽面積が 9.8ha に限られたことが元凶である。つまり候補地選定時に、唐津沢の廃棄物処分容量の算定に重大な誤算があったことに原因がある。このような異常な廃棄物層は、崩れ易く、洪水に流され易く、極めて不安定な状態である。

1:2 の勾配で積上げるのは力学的に安定だとして、廃棄物埋立・積み上げを最大高さが 45m にしてしまうのは、大変異常で危険である。廃棄物積み上げで遮水シートの張力は倍増し、盛土埋立の所に設置される廃棄物槽（容器）のライナーには、廃棄物埋立の高さが異常に大きいため、多大な変形、剪断力が掛かり、その破損による浸出水の漏水の危険性は否めない。縦方向断面図を見るとよく判りますが、山並みに積上げられた廃棄物層は、谷沿いに 536m に渡り、盛土埋立が 35m で、その上に廃棄物埋立が 45m で、合計 80m の埋立地はそれ自体で安定なものではありません。

添付冊子 p73 の「廃棄物埋立積み上げ後の廃棄物層崩壊の危険性の検討」で示唆したようなすべり変形による廃棄物層の崩壊モデルは、最近熱海市で発生した人災とも言われる土石流の惨事を連想させます。

そこをお願いします。本計画では深い谷間のため廃棄物槽面積が 9.8ha に限られた為、廃棄物が山積みされますが、「廃棄物槽（容器）の耐久性や廃棄物槽の崩壊の危険性については、どのように検討され、どの程度完了しているのか」調査されてお教えいただきたい？

## 3. 谷底盆地の盛土・埋立に関連する欺瞞について

「添付冊子」の 9. まとめ（8）に詳しく示すように、私どもは、あり方検討委員長宛に「産廃最終処分場の候補地選定に関する公開質問状」をお届けし、その中の 1 つで、「**急峻な深い谷地のままでは、廃棄物貯蓄槽の建設地として極めて不向きな地形である。**」にも拘らず、選定理由欄には、「**地形を活用し、低い工事費で建設可能**」とまで表記されていた為、「谷地形の地形をどのように活用し、どのようにして低い概算工事費とするのか**根拠**を示していただきたい。」旨の質問をしました。それに対する資源循環推進課長様からの回答書では、「整備候補地選定時の概算整備費は、それぞれの候補地の状況により処分場整備費を算出しています。日立市諏訪町については、既に掘削されているため切土が少ないことから、**埋立地の整備費用は他の 2 カ所より低くなっています。**」とのことでした。

ところが最近になって開示された計画図では、盛土埋立の最大高さは 35m にもなり、盛土埋立に要する土石の量は、廃棄物容量のほぼ 2 分の 1 にあたる 122 万 m<sup>3</sup> が見込まれる。この盛土埋立には、莫大な費用が掛かるばかりではなく、大規模な埋立地に山積みの廃棄物槽が建設されるため、その後の構築物の安定性も疑わしくなります。

「既に掘削されているため切土が少ないことから、埋立地の整備費用は他の2カ所より低くなる」と日立市諏訪町は、他の2カ所より低く見積られるが、実際には膨大な盛土埋立費が掛かることになる。即ち、欺瞞に満ちた大きな情報操作があったと言わざるを得ない。

「このような不合理は、ごく限られた担当者に依存し、秘密裏に非公開で建設計画が進められて来たことに起因する」と推察されますが、ご苦労でも**貴基本計画策定委員会では、大所高所から十分に見極めたご審議を**していただけますようお願いいたします。

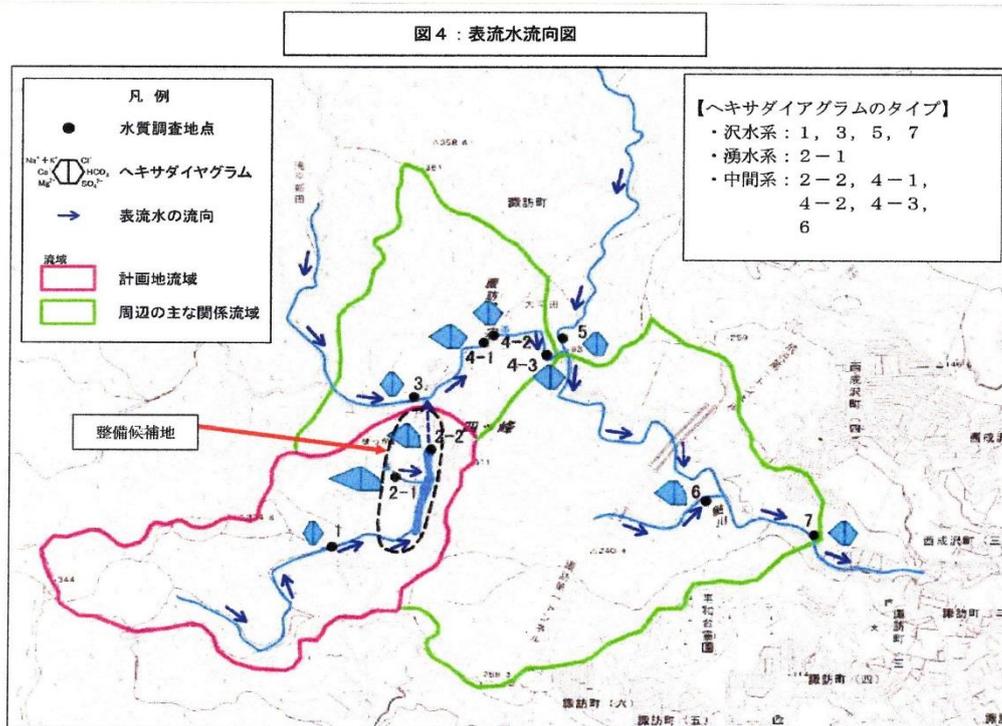
(文責：鈴木鐸士) 日立市千石町 1-15-26 電話 090-3546-1796

## 参考資料 1

### 新産業廃棄物最終処分場整備に関する水文調査について (梁の資料抜粋)

#### 1 調査の目的

整備候補地内の地下水の分布及び流動状況を推定するとともに、整備候補地内及び整備候補地周辺の地下水と表流水の概要とその関連性を把握し、整備候補地の基礎情報を得る。



7

#### (3) 表流水の主な流れ

現地調査及び表流水の関連性から、整備候補地及びその周辺における表流水の流れを以下のように推定した。(図4)

- ① 整備候補地南西側からの沢水は、水路により鮎川に流入するほか、掘削部の湛水に一部流入している。また、掘削部壁面の湧水が湛水部へ流入している。
- ② 鮎川は、二筋の沢が大平田地区で一つに合流しており、合流地点より上流の沢には、湛水の一部が流入している可能性がある。